

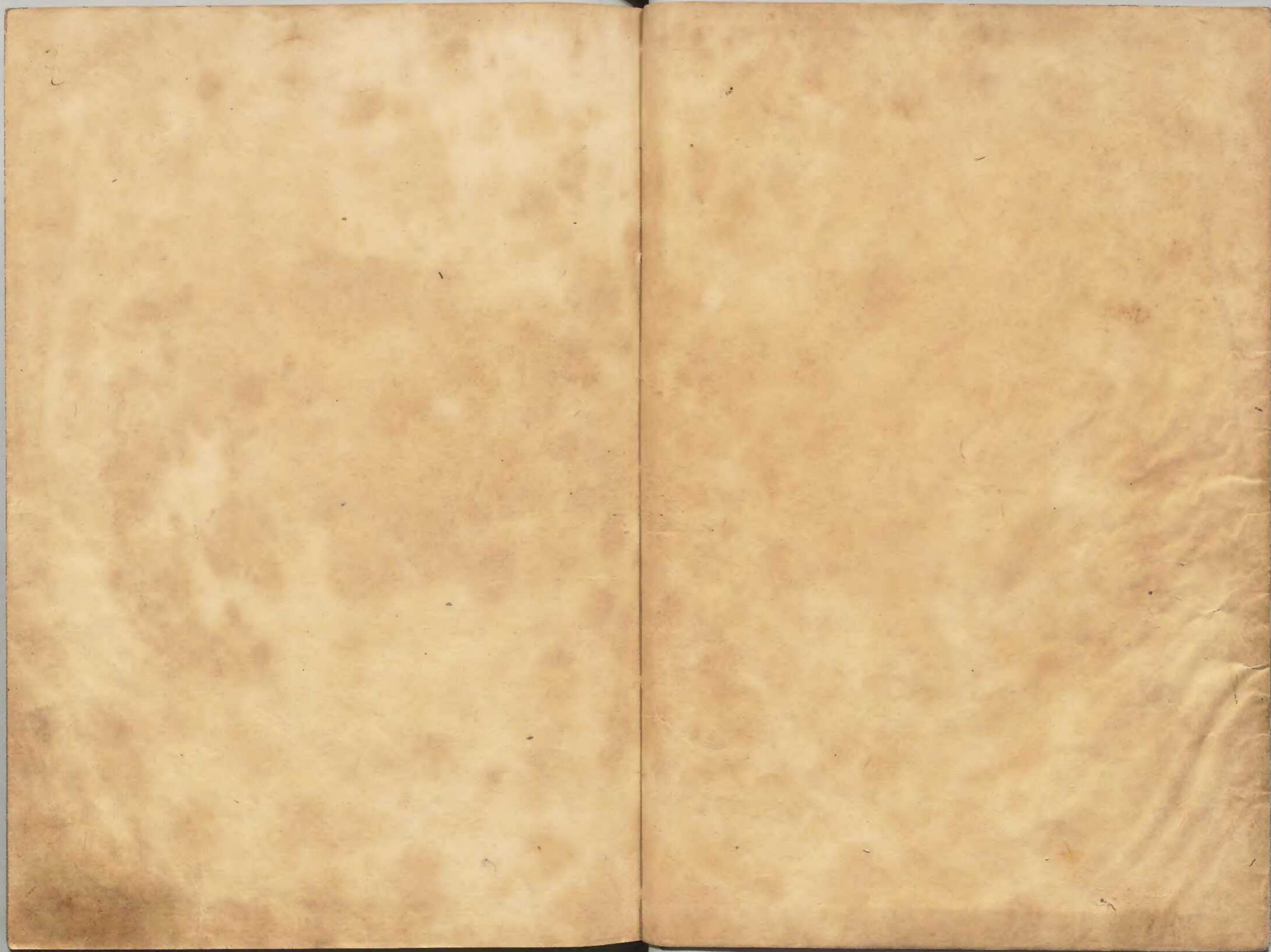
14

貞永諸家譜

清和源氏乙五冊之内
義家流之内足利流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186(14)
函號	特 76 1





喜連川 并 宮原 蔭山

石良 一色 畠山 基川

今川 兵川

河田 瀬谷 高林

寛永諸家系圖傳

信和源氏 乙一

義家流

足利流

長連川 宮原

清和天皇第六王子

貞純親王

四品 中務 上総 常陸乃守

桃園親王と号す

淺草文庫

經基王

上總介

法守府將軍

天徳四年六月十五日しんつめて源乃姓と

たまふ弓馬武畧ぶり長と六法王也

号と

滿仲

正田信下

攝津守

法守府將軍

昇殿

被入多田と号と

多田院と

建立と

賴信

從四位下

法守府將軍

永兼三年九月逝去

賴義

從四位下

伊豫守

法守府將軍

永保元年逝去

義家

正四位下 陸奥守

法守府將軍

八幡太郎と号す

母ハ上野女

直方躬仁女

義國

式部左衛門

母ハ中宮亮有經女

義康

足利新判官

日孫殿

義兼

従五位下

上総介

足利之郎と号す

母ハ熱田大宮司季範女

鑲阿寺

義氏 よしうぢ

法樂寺 ほつらくじ

泰氏 たいし

宮内少輔 みやうちりょうぼう

平石寺 ひらいしじ

頼氏 らいし

治部左衛門 ちぶさゑもん

智光寺 ちくわうじ

家時 けあき

伊豫守 いよのり

報國寺 ほうこくじ

貞氏 さだし

讃岐守 さぬきのり

淨妙寺 じやうめうじ

基氏 もとし

從二位 じゆゝゐ

大納言 おほののり

征夷大將軍 せいゐたいしやうぐん

延文三年四月二十九日卒四歳小一て薨
法名妙義 長壽寺と号す
贈左大臣従一位

義珍

征夷大將軍

京都將軍家

基氏

右兵衛督

従三位

文和元年二月二十五日元服
貞治六年四月二十六日逝去
瑞泉寺殿玉岩斯公と号す

氏満

右馬頭

永安寺殿

應永六年八月四日四十二歳小一て
逝去

満兼みんかね

左馬頭さまたて

應永二十六年七月二十六日三十三歳さいにて
逝去しよき 勝光院しょうこういん 敬げん 泰岳道安たいごくどうあんと号す

持氏もちうぢ

左馬頭さまたて

從三位おのゝみか

永享十一年二月十日四十二歳さい乃中なかつ記

永安寺えいあんじ

よむわくく自みづかひ宮

長春院ちやうしゆんいん 殿でん 陽山やうざん

純公じゆんこうと号す

成氏なりうぢ

左馬頭さまたて

從四位下おのゝみか

明應六年九月晦日けいりう逝去しよき

行年ゆかり六十四

乾亨院けんけいいん 久山きゆうざん 昌公しやうこうと号す

改氏 かへしうぢ

左馬頭

從四位下

享祿四年七月十八日逝去

甘棠院右山道長と号す

之基 のき

千光院

晴直 はるなほ

宮原 左馬頭

春敵院 後胸 一ノ丸 附

憲廣と号す

後一ノ丸 上総乃宮原

了一 伯す

義明 よしみ

八正院

頼純

喜連川

安長六年一月冒喜連川よりの
遊去 竜光院金山積と号す

晴氏

右善清普

後田迄

永禄三年一月二十七日 関宿鴻
わく遊去 永田院系山統と号す

義氏

右河

右善清迄

後田迄

天正十年十一月二十一日 右河の城
おあ〜遊去 香雲院長山善と号す

氏女

義氏男子が死すよ氏女その家と居る
天正十八年 関白秀吉園東下向河

國朝

其家乃すもんとすれ事とあり
ひて氏女とありて國朝くわにちのりめありせ
て其家とほぐし國朝くわにちハ八西院やくしやん義明
の孫まごとして源家の同ごとなりあり
元和六年げんわ庚申こうしん六月六日ろくがつにじゅうろくにち氏女うぢめ逝去しよき
德源院とくげんいん茲峰きみね見公みこうと号なづせ

右善清

八西院の孫頼純の子なり氏

女の夫うぢとなり其家そのいへとほぐ

文祿二年ぶんろく秀吉ひでゆきと討うたまりし

國朝くにち秀吉ひでゆきより海見うみみえんがしめ法はふあり

はむくとして藝げい列れつまゝくくしり病やまひ小

のりく卒すまひ

頼氏

右馬頭

兄國朝あにくにち逝去しよきしりしりしり其家そのいへとほぐんが

しりしり文祿二年ぶんろく京みやこ於おめて秀吉ひでゆきなり

由見く内秀吉又國朝の室氏女と
頼氏の妻とくく其家とけぐし
寛永六年

東照大指現より沙加増ありくお沙千

石浜願と

寛永七年六月逝去

義親

河内守

頼氏より先よ卒と

信

右老湯智

父義親死去よりく信は祖父の位と

けぐ是

台徳院教の命ふよりくたし

義勝

弾正

祥雲院

義照

宮原 勘子郎

天正十九年

大権現のむかしより宮原と氏と

上総守 宮原よ居候と

天文長五年 志留陣の事

台徳院殿の侍と

同七年 正月死去

志留院と号す

義久

勘子郎

兄義照の遺跡と号す

大坂沙陣れと号す

台徳院殿の沙陣れと号す 京まで發向し

大坂へおしむすして二条の陣れ沖番

とつとむ

寛永七年十二月死去 新寶院と号す

晴克

右京進

母武田勝頼がしりぬめ天正十年六月某日

河甲引ぐわ後列の田中より其

大指現のむせふよりわくふる力指たきつり

わづきられ二十人技指とたまひれ其

後長七年

大指現の命あそく義久の妻となれ

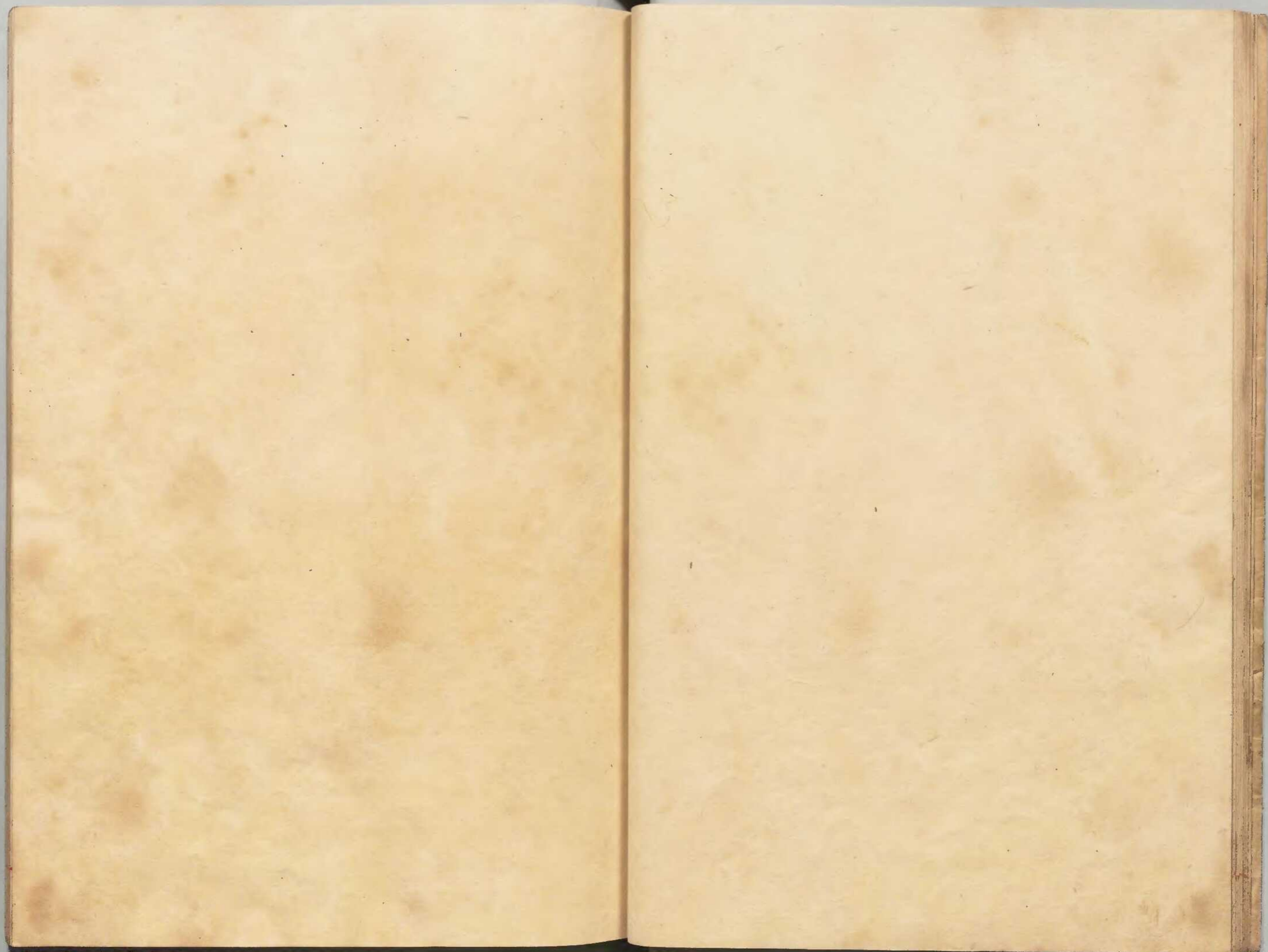
元和六年九月晴克何ぞめそ

台徳院殿

寛永八年父の遺跡と并領と

長連川家の紋桐 幕之幅白

家原同前



● 基氏 もと

鎌倉殿 かまくらどの

瑞泉寺 みずいん 号 ごう

● 基氏 もと

征夷大將軍 せいゐたいしやかん

蔭山 かげ

氏満うぢみつ

鑑倉殿かみくらどの

永安寺と号えいあんじとごう

満兼みつね

鑑倉殿かみくらどの

勝光寺と号かつみつじとごう

持氏もちうぢ

永享十一年二月永安寺よとひくえいこうじゅういちねんにがつえいあんじよとひく

自宮とみみやと

長善院と号ちやうぜんいんとごう

持仲もちなかつ

上杉禅秀謀及の内宮下にとひて自宮かみすぎのぜんしゆぼう及の内みやしたにとひてみみや

満直みつちか

稻村と号いなむらとごう

持氏同内と自宮もちうぢどうないとみみや

満隆みつたか

新湯堂にんとうだう

持仲 同河了 自室と

満貞

藤河と号と

僧満秀

日光山別當 大沖堂

女子

女子

大平寺 昌泰道安

義久

劔王 大若公と号と

報國寺了 おろく自室

春王丸

濃列 玄井よおろく自室と

母王丸

表王と回河了 自室

成氏

右馬頭 長連川并宮原社

僧成洞

大冲堂

僧月昉

長善院

僧善徹

若宮別當

廣氏

播磨守

日向持氏自宮乃とき廣氏之衆とて

僧守實

德勝堂

宮下

蓮光院

從五位下

乳母一しごれひそくに伊豆の國小
かられ糸縁よ薩山氏ありふり其家
一しそのびありしを中薩山氏の
ひとめ一嫁して其のふ薩山乃家と
しぐ

廣親

尾張守

廣忠

從五位下

播磨守

家廣 いへひろ

忠廣 ちゅうひろ

長門守 ながとものし

刑部左衛門尉 かきふささむらじ

氏廣 うぢひろ

長門守 ながとものし

女子

紀伊のたいごんげんよりふまきとちりごんげんよりふまきと
紀伊大納言頼宣きいのだいなごんげんよりふまきと
山内中納言頼房やまうちゅうなごんげんよりふまきと母

貞廣 まことひろ

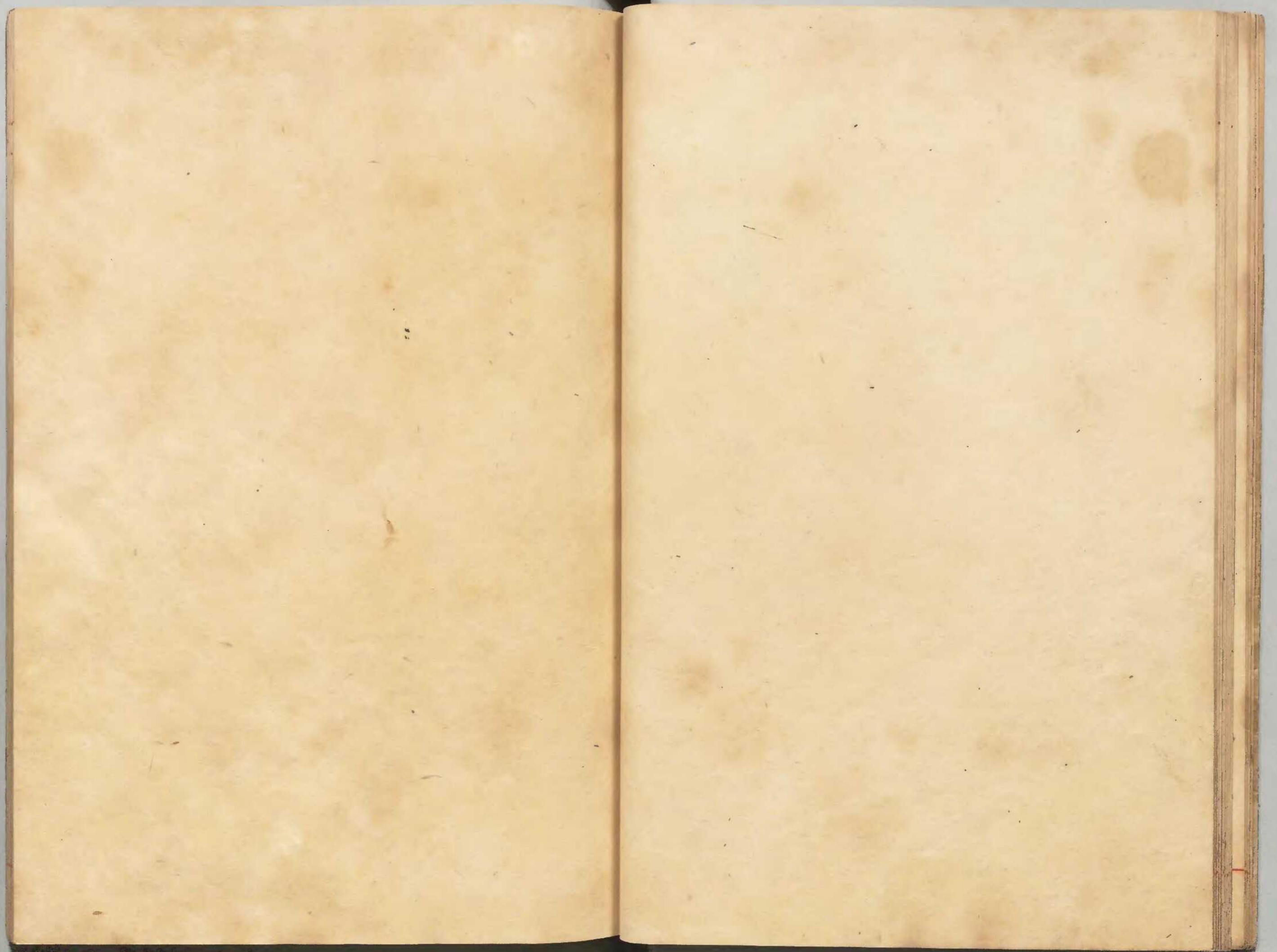
同播守 いかにのし

従五位下 じゆごいかげ

持廣 もちひろ

左衛門佐 さむらひのすけ

家紋 丸内之つ引 いへのん まるのうちひき
井ノ紋 沢澤 いんのま ざわさわ



義氏よしかた

義康よしかた

● 義家よしかた

吉良きりら

荒川あらかわ
長山ながやま

一色いっしき

義通よしかた

義國よしかた

今川いまがわ

品川しんがわ

長氏 みなが

母家の女房

従四位下

上総介 左衛門尉

足利公卿

新御堂殿と号す

義氏が家督とけぐといへども病氣

より家督と泰氏よりゆづりて三列

吉良の元暲より伯と

義継 よしかつ

何れも吉良の東條より伯と其後渡唐志

く瑞初乃母世成のむきく奥列

下向とそ子孫奥列一方の管領ありき

義継が末流用東よりとひく吉良成

名のれり

東照大権現きこころありあはれとて吉良

氏一人乃かこまありとてと作ある

了すも今の荷田と号す

泰氏たいし

足利の祖あしかしのそ

満氏みんし

足利あしかし

上総守かみそとのもり

左衛門尉さえもんゑい

従六位下したがいのかげ

右大臣みぎのちみ

貞義さだよし

弥太郎やたろう

従四位下したがいのした

上総守かみそとのもり

左衛門尉さえもんゑい

法石省觀ほうせきしやうくわん

實相寺じゆんさうじ

満義みんよし

之郎のちろう 正之位ただのち

昇殿のぼりだん

左京大夫さきやうのだいふ

左衛門督さえもんくわく

麻光寺あすかじ

家傳けでん よいしく 正官ただのち の河が といへり

礼式らいしき 地ち 一ひと ことなる家け 少すく 昇殿のぼりだん とゆ

執と 事じ こも 一ひと 代しろ の官位くわんゐ を

のぞもすとき

有信

弥之郎

右馬助

貞弘

荒川四郎

満貞

三郎 治部左衛門 右京大夫

後四位下 道真寺と号す

有義

四郎 右馬助 横谷寺と号す

一色 長吉寺の祖

有義

東條 中務右衛門 霊源寺と号す

満義の隠居の地は恒して兄弟合
我して東條と押領とと云

朝氏

右美濃守

光榮寺と号す

持長

長栄寺と号す

持助

切通寺と号す

義藤

亀尾寺と号す

義春

善念寺と号す

義真

右善後

北苑北苑院と号す

義信

右善後

常楽常楽院と号す

義元

三郎

右善後

少梅少梅院と号す

義堯

乾福乾福院と号す

義尚義尚は義信義信の子なり義真義真義信義信の孫なり
義尚義尚は世のうちに早世早世するなり
義尚義尚が家督家督を継ぐ

義卿

寶珠寶珠院と号す

義安

之節

上野女

花菱と号す

何れ東條持廣が娘子として東條

乃家と号す義郷義昭早世乃好

西條の家跡絶すれよとあま良

と号す領と

義昭

義定

上野女

生國駿列

母八松平伝忠主女

寛永四年三月よおわて病歿六十有餘

長松寺と号す

女子

母八とよ同

今川範以が妻 範英が母はよ大炊御門

大納言源頼家（子）の孫
大納言源教郷（子）と
し

義経

上野介 石川清景

生國彦列

母今川氏真女

安永二年

台徳院殿と評し

同十二年十二月二十四日従五位下

叙し内侍小御と

同十六年正月二十一日正五位下小叙
し従四位下と叙し

元和九年

今上御誕生の河内沙院の沙院として
上洛しともさ右少将と叙し

寛永元年

東福門院立后の河内

院の沙院として上洛の事見申す
はせしむといふ事と評し

同十四年九月二十七日江戸二丸

東照大権現御遷宮のときこの御樂座
右ノ各のつげ物あはれの後王ハ勅修寺
中納言御廣御太刀納獲利を義弥
こそとひくそ介毎春年始の御祝
儀として勅使下向并親王家攝家
門次諸公家江戸系向の御礼の時
御前の披露毎度義弥こそとひくと
い又い御社系御公納のとき御祝

御幕の役とあり

定安

荒川右馬助 生國之列

元和五年二月

名徳院殿と拜と

同九年正月より御書院番と所と
同年十二月之列よおわく六百石乃
知所と御領と

寛永十年六月式列よおわく二百石の

定望

加増とく海に於
同十二年九月神書院番の經り
とありけ
同十二月ゆかりに即夜と云ふ

一色内通

生國之列

寛永十三年

於軍家と云ふ

義冬

若狭守

右京左衛門

生國武列

母ハ今川範成がひとめ

元和三年

台徳院殿と拜と

寛永三年八月十八日従五位下
叙と同日約長よ何と若狭守とありぬ
おそき御上洛のさしひとよきとく

柳家仙洞きんりせんどう 糸治いとじ

將軍家出陣しゅん乃なりともさ或ハ陣じんを刀或ハ
沙勝さかつ乃なり段だんとつつ心こころ又陣じん社しゃ糸治いとじ
此語このことば乃なり内陣うちじん裾すそ沙原さはらの段だん内うち小こううちちて
こも成なりははとと

孫信まごのぶ

岩山八景いわやまはつげい 生國武列なまくにぶり

母ははハハよよありあり

寛永かんえい五年ごねん

將軍家と評へいししくくままののれれ

同十四年どうじゅうしよねん正月しょうげつ沙書院さしよん番ばんと評へいと心こころ
同十六年どうじゅうろくにんねん十二月じふにがつ沙切さきり番ばんと評へい領りやうと

今川いまがわ

國氏くにうぢ

長氏ながうぢ二男になん 四郎しろう

長氏ながうぢの隠居かくきよ乃なり地ちと相續さうぞくして今川いまがわと
稱なづと 國光寺くにみつでらと号なづと

基氏

美入右衛門

後乃國光寺と号す

常氏

関口次郎

俊氏

入野之郎

政氏

本田四郎

経國

関口五郎

女子

基氏那兒耶氏とやーなひて新と

女子

基氏石川氏とやーふ川と聲と次

頼國

之郎

式部大史

修理大史

従五位下

中先代合我のとき海路の大將と

て京師より相摸川を下向して

死す

頼貞

刑部左輔

掃部助

後河守

従五位下

美子にきさふりて頼氏に譲ると

頼兼

式部大史

三河守

従五位下

法折

園光寺の僧

佛満禪師と号す

範國

西師入道

法石心者

建武四年濃河を渡原におかき合戦

のときあつりて馬よつてけり

とす富士後回の徳瑞とくずいつれよりわく
あり去よりこのこ子孫こぞ入れと相續ついでと
正光寺と号なづと

範氏のりうぢ

小節こぶし 上総介かづのすけ 中務大権なかつむのたかみ 後回ごかい 下
交壽寺と号なづと

貞世まことよ

六郎むさし 后京大夫ごきやうだいのうぢ 任豫守いにしよのしゅ 後回ごかい 下
康安貞治かうあんまことぢの比侍ひじ百ひゃくとけし海うみのり
徳とく為ため乃の探部たんべとと乃の事こと十三年じゅうさんねん範氏のりうぢ
早世はやせいの存家ぞんけ智ちとけくといとい之の泰範たいはん
よゆつりて海藏寺かいざうじと号なづと 法名ほふな了俊りょうしゅん

貞信まことのぶ

権越ごんえつ后京大夫ごきやうだいのうぢ 子孫こぞ後ご石いしと
わくを心こころ

貞継

名和伊豫守

貞兼

尾崎右京亮

氏兼

蒲原越後守

仲秋

兼本左衛門尉

従四位下

法石仲高

氏家

中務右衛門

早世

恭範

右馬助 上総介

長岑寺と号と

範政

右衛門 氏教右衛門 上総介

従四位下 全林寺と号と

範忠

治部右衛門 上総介 従四位下

寶應院と号す

永享十二年 將軍義教関東征伐乃

とき副將軍とたす

義忠

公卿 治部右衛門 上総介

長保寺と号す

文明八年 横地勝石田黨一揆とあこ

す 喜列 垣 貝坂と号す

死す

氏親

公卿 修理大夫 上総介 瑞雲と号す

母ハ伊勢新九郎長氏が姉

氏輝

小郎

伏濟寺と号す

美子なき小より家督と義元よゆづれ

花念

氏輝死に家督と義元了りゆづれ

こととらみ合戦よありふといへ

ご色にわたり敗北して後列花念

ふく生客

義元

治部を捕

永禄三年五月十九日尾列よおわく

討死 天澤寺と号す 河軍二衆

女子二人

其いよわ中沙門大納言の室そのい

とわ小糸氏康が妻

氏夫

小節 上継母 母ハ武田信虎女

安長十九年武列ノケ病死 年七十七

仙岩院と号ス 法名宗岡

女子

母ハ上ノ同ト 武田義隆妻 法名貞志

範以

小節 右馬助 母ハ小糸氏康女

生國相列

安長十二年城列ノケ病死 年二十八

仙岩院と号ス

高久

小川新六郎 母ハ上ノ同ト 生玉彦初

安長三年

名徳院殿と号ス

寛永十六年武列ノケ六十歳ス

病死

松月院と号す

今川氏二人の介称号とゆれされ

とふ

名徳院殿の御命よそ品川と称す

高如

品川内膳

生國武列

寛永元年

將軍家と稱す

高寛

品川主馬

生國同前

寛永七年

將軍家と稱す

澄存

母はよむり

生國を列

三井大阿闍梨

若王子大僧正

聖護院准后道院の弟子同二品親王

道見灌頂乃御範大峯乃大光達

女子

熊野之山修験道下山乃奉行なり

右良上野介義定室義深の母

直房

刑部右衛門

侍従

従五位下

初ハ範英と号すと

生國山城

母ハ右良義康の女

安長十六年

名徳院殿と稱しそまろ親

寛永十三年十二月二十九日従五位下

叙一同日侍従一_少一_少刑部右衛門

とのね

將軍家沖袋東三河のとき毎度

衣紋一_ニ河作一_ニ出河の内ありハ

沙を刀ありハ_ニ沙腰あり_ニ後を_ニ片

とむ

以庸しゆ

石尾翁人いしかおんじん

母ははとよむらじむらじ一いち早世はやせい

寛永七年

將軍家とありしんぐんけたとあり一いちつらつらつらつら

女子

母ははとよむらじむらじ

大友右衛門善義親おほともゑもんぜんぎしんの妻つま

女子

母ははとよむらじむらじ一いち

吉良上野介義隆きちらじやうのすけぎさねの室むろ

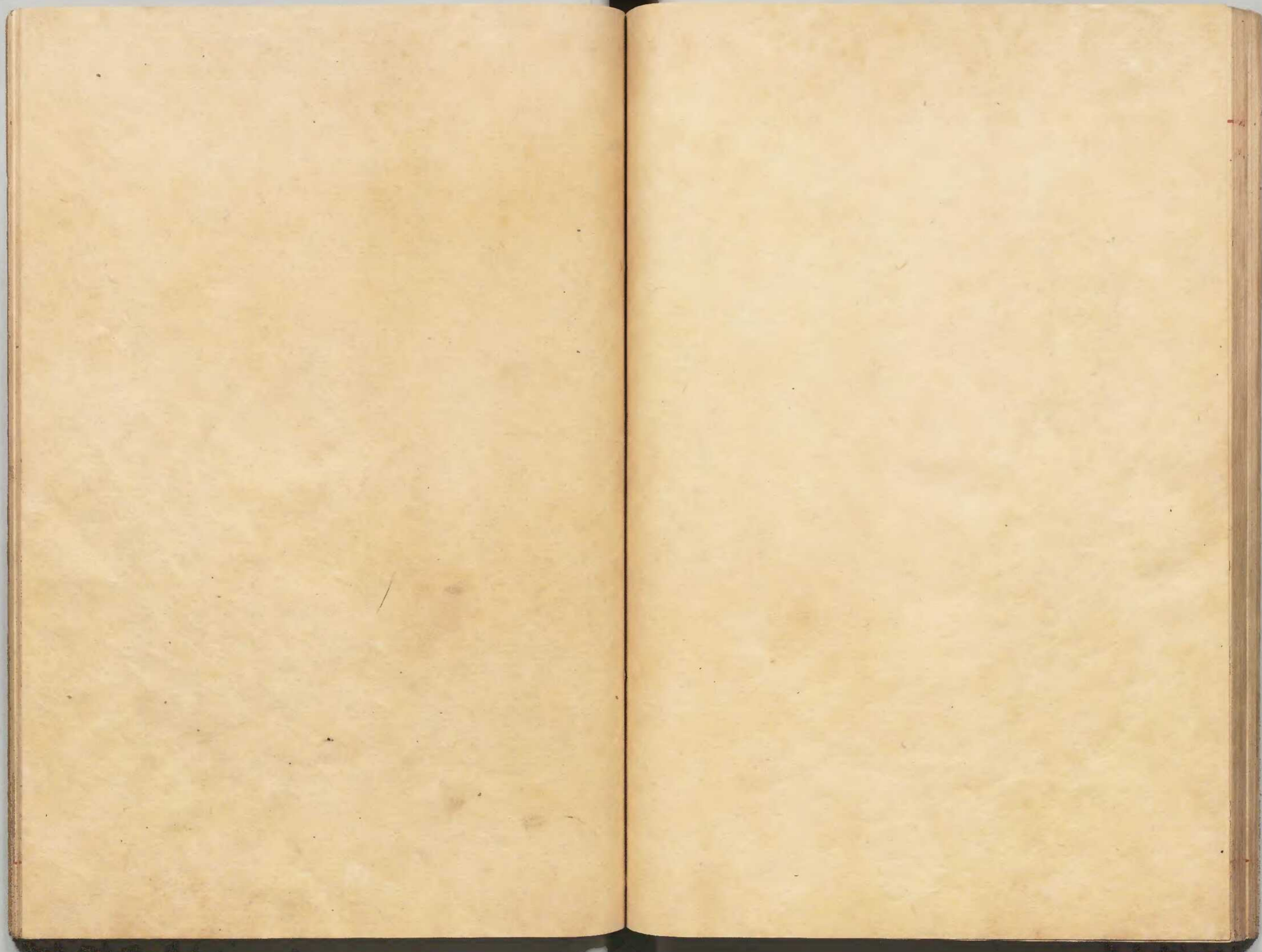
範明はんめい

左京さきやう

吉良きちら家紋相いづのりんさう

今川いまがわ 回前わいぜん

幕之幅まくのひろ白しろ



蔭田まいた

義家よしか氏うぢ

義氏よしか

足利あしか左馬頭さまたて

義継よしか

東條とうじょう四郎しろう

家治けぢ云いひ義氏よしかの長男ながおとこなり

奥列おくりよありくきり右良みぎらと号なづす

經氏つとむ

上總介つとむのすけ

經家つとむ

貞家つとむ

左京太史つとむのたし

治氏ち

中務太補ちのつとむ

治家ち

能乃治部太補ちのちぶ

長利基氏の招まねよりして御ごて奥列おくりより

鑑念かんねんへはむじきすからソラと列り能乃治と

源みなも

賴信よりしる

出羽大補ひやふのたしよ

賴氏よりしる

左京大史こしやのたしよ

賴高よりたつ

右京大史こしやのたしよ

改正しほり

右京大史

成高なりたつ

世田谷右良と称せたがやのりよとせう

関東の公方より武列乃世田谷相列乃くんとくほうよりぶりつ乃せたがやさうりつ乃

蔭田より海ノ系いんたよりうみのけい乃乃飽間あまより

世田谷よした一い一し一け一り一く一所一領と

頼康よりやす

正四位下しやうゐのゝしも

右兵衛佐みぎべゐさ

氏朝うぢあさ

右兵衛佐みぎべゐさ

頼久よりひさ

右兵衛佐みぎべゐさ

神かみ一く一野一田と号と

生國武列世田谷なまくにけりよした

天正十八年てんしやうじはちやうねん一か一凡一集一人一参一看と

東照大指現とうしやうだいさしげんと名一なと号なと

同十九年どうじゅうくねんと総國そうこくのらららとて名地なぢ

千石せんいし石附いしづとたたままと

安永五年あんゑごねん一園一原一沙一陣としと

同六年どうろくにん江列かうりやう白燈はくとうの内寺うぢ鹿か村むらとらと

増ぞう七しち百ひやく石いしとらとらと
釣つり余あま小ことらとらと

伏見沙城令阿孫らるる日乃沖若と所と心
同十一年三月二十七日病死

義祇

右名清佐 總列寺邊村へ生れ

父頼久死後江列の赤地とさしあけ

て總列の赤地千百石と領と河へ

三峯たか

安長十六年

大権現

台徳院殿と拜しきまつれ

大坂沙陣のとき義祇幼少をれた

家人とけりてお多佐渡守くみり

属して大坂小石のいし

義勝

右馬助

美八小笠原總左助長房が子なり頼久が

養子うやしとなれたる時とき白しろと称と頼久ひさが妻は
義勝よしかつが伯母なり

寛永四年かんえいしよん一いち月げつ

將軍家へはけん入りてまつりてし少せう小せう姫ひめ姫ひめの
御ご書しよとしる

家紋いへもん桐きり

幕紋まくもん三幅さんぷく白しろ

貞世

瀬名

今川乃末流中後列瀬名は貞世
小川に改て瀬名と称号と貞世より
以前は清まひりりよ今川刑部左補範英
系圖より見ゆ

正田下

伊豫守

法名了俊

九列の探題とあり遠列後列但馬

然若あふせく十三列の守護しり射
御とくく一和歌の道しり長せり

貞白

従五位下

右京大夫

伊豫守

遠列の守護しり

貞相

従五位下

伊豫守

遠江の守護

範将

従五位下

伊豫守

貞延

従五位下

陸奥守

遠列の守護

一秀

従五位下

陸奥守

初はつ海うみ増ま寺てら乃の法はふ師し住すま居ゐ遠えん依い一いつてて義ぎ秀しゆ
と号ごう一いつ遠えん列りつ二に侯こう乃の城じやう一いつ居ゐと

氏貞うぢさだ

従したがふ位ゐ下げ 陸奥守 二侯の城一居

氏俊うぢとよ

従したがふ位ゐ下げ 右衛門佐

駿列すま俊名とよな一いつ居ゐと

義廣ぎひろ

関せき口ぐち刑部けいぶのの補ほ

女子

豊とよ濟しよ之の節せつ信康のぶやす之の母はは 築山きよやま殿のとのと号ごうと

氏明うぢあき

伊豫守 徹石とほいし一いつ居ゐと

母はは今川いまがわ義元よしたか妹いもうと

政勝 まさかつ

源公朝

十右衛門

生國後列 なまこくごり

天正九年 てんしゅう

東照大権現と洋しん一しんをてまつれ

同十一年四月尾列小牧陣おのゝこまき一しんを

交長まこと六年一しん國くにが原陣はら陣じん小佐こさ長

元和二年四月十四日死

政忠 まさただ

市左衛門

大権現と洋しん一しんをてまつれ

交長まこと六年一しん國くにが原陣はら陣じん一しんを

右久 みぎひさ

八右衛門

生國後列 なまこくごり

寛永六年

將軍家と洋しん一しんをてまつれ

貞正

友之節

貞國

平右衛門尉

後、右衛門尉とありたりし

母、葛山海中守のしとめなり貞國の父母と

勝頼の妻とありみあるふより貞國母懐

妊乃河勝頼の妻けいやくありてア一かひ

て子となり勝頼の妻ハ小條氏康乃じ

しとめなり貞國七歳の河勝頼自殺と貞國

とあり

台徳院殿

將軍家と評しけり

貞利

小右衛門

生國武列

寛永十三年

將軍家とねしけり

同十六年 沙切茶と茶領と

家紋いへもん 二引ふたひき

衣服いふく の紋格もんかく 相あひあ

● 吉利

市左衛門尉

生國遠列

東照大権現了（たか）所久（たか）くま（たか）つね

天正六年武列（たか）由東府中（たか）代官（たか）と

なれ

高林（たか）

今川（いまがわ）の末流（まつりゅう）なり

安長元年正月晦日死と河よ七十二歳

吉次

弥市郎 市郎左衛門尉 生國同前

台徳院殿了了^{はく}はく^まま^つ系

安長十八年大沖蕃の総頭となり

元和八年六月二十日死と河よ四十七歳

利春

弥市郎 河内守 生國武列

美ハ嶋田弾正利政が二男なり吉次こ

まこと屋一ありく子とせし

元和六年

將軍家了了^{はく}はく^まま^つ系河よ十八歳

寛永元年十二月晦日従五位下^よ下^り叙と

家紋 藤の丸

